インドで思ったこと　その④　インドの社会事情

50年前の日本ににタイムスリップした感覚に

インドに行くと貧しい人々の多さにびっくりさせられます。アメリカの首都ワシントンでたくさんのホームレスをみかけましたが、彼らの多くは失業した人たちです。しかしインドでは仕事にもつけない絶対的貧困層の人たちがものすごく多いのです。黒いビニールで雨露をしのぐだけの家（とても家といえるようなものではありませんが）。バスはボロボロ。自動車もトラックもオートバイも日本では廃棄されそうなものが平気で走っています。路上にはゴミが散乱しています。ヒンズー教徒が多数をしめるインドでは牛は神聖な生き物で、デリーでも牛が闊歩していました。高速道路を悠然と歩く牛をみて、インドを実感しました。牛の糞があちこちに落ちているのでハエが多く、食事はハエを追い払いながらすることになります。わたしの子供時代は戦後の復興期でしたので、まるで五十年前の日本にタイムスリップしたような感覚になりました。道路は舗装はされているものの穴ぼこだらけ。トイレ事情も快適とはいえません。水洗ですがトイレットペーパーはありません。

わたしの娘の友達がインド旅行をしてトイレにこまり「もう二度とあんな国にはいきたくない」と云っていたそうです。娘が「お父さん、インドにいくならティッシュペーパーではだめ」と云ってトイレットペーパーを二つカバンに入れてくれました。インドに行ってこれがどれほど貴重なものか実感しました。紙（神？？）さま、仏さまでした。首都デリーのインディラ・ガンジー国際空港のトイレですら、ロール紙が切れてなくなると補充はいつのことか分かりません。

インドのトイレットペーパーはなんでこんなちょぼっとしかないんだ？しかもスペアーも置いていない。

インドの義務教育は独立後にはじまった

インドはたいへんな国だと思いました。植民地だった二百年間、イギリスは手工業を徹底的に破壊。インドを綿や紅茶などを栽培する一次産業の国にして資源を略奪しました。そしてイギリスの綿織物や工業製品の大消費地にしてしまったのです。独立後、パキスタンや中国と緊張した関係の中で国の再建すすめてきましたが、近代化にはまだまだ時間がかかることでしょう。地元の人たちと話していると「道路が良くなるだけでも二十年以上かかるだろう」と云っていました。社会インフラの整備にどれだけの時間がかかるか誰にも分かりません。

イギリスは教育にはほとんど関心をはらうことがありませんでした。義務教育は独立後にはじまりました。毎朝、子供たちが様々な制服に身をつつんで学校にむかう姿に接して、将来この子供たちがどんなインドを作っていくことになるのか見守っていきたいと思いました。

インドのトイレ事情を笑うことは天つばもの

ところで日本で深刻な問題になっている「トイレなき高級マンション」のことをご存じですか。原子力発電所のことです。使用済みの核燃料はたまる一方。青森にできた再処理工場もトラブルつづきです。地下に埋めることが検討されていますが地震国の日本で数万年から数十万年、さらにもっと長期間にわたって安定して保管できる場所があるのか？研究は急務の課題です。インドのトイレ事情を笑うことは天につばをするようなもの。インドの神様に笑われます。

（もり　としあき）

続

サイエンティストの日 ⑦

森　利明
（もり　としあき）
大阪府立大学 先端科学イノベーションセンター